

学校教育目標	自他を敬愛し、勤労を尊び、磨かれた知性と豊かな情操を持った行動力のある心身ともに健全な生徒を育成する
育成を目指す資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力の向上と補充学習の取組による確かな学力の定着と向上 ・教育活動の工夫充実による豊かな心と健やかな体の育成 ・保護者・地域との連携による生徒の生きる力の育成

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	○ 授業改善の検証指標に照らし合わせて評価した状況 ・定期テストで下位層(正答率40%未満)の生徒の割合14.6%(2月)→11.3%(9月)(指標12%未満)。「授業がわかりやすい」と答えた生徒の割合90%(2月)→90.3%(9月)(昨年度の指標90%以上、今年度指標92%以上)から、1学期は全体では低学力の生徒が減少しているように見られる。しかし、学年ごとに見ると達成されていない。 ・学校での勉強が分からないままのことが多いと答えた生徒の割合19%(2月)→13.7%(9月)(昨年度指標15%以下、今年度14%以下)、コロナ禍のため、教え合う学習を実施することが難しい中、自ら分かるよう努力をしている生徒が多くなっている。 ・読書冊数は呼びかけなどにより、1学期中一人平均7.7冊と達成指標(年間一人平均12冊以上)に近づいているが、「よく読書をする」と「まったく読書しない」の両方がそれぞれ20%前後あり、依然として二極化している。	○ 各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・2年生の国語・社会・英語は、全国、県、自治体(大分市)の平均と目標値を上回っているが、数学は県、自治体(大分市)、理科は全国、県、自治体(大分市)の平均と目標値を下回っている。2年生の数学・理科は単元や分野別で調査結果にばらつきがみられた。 ・教科の基礎的な問題についてはできていないが、横断的な学力(2年生:レポートを書く、1年生:地図の縮尺など)については課題が残った。 ・3年生は国語も数学も領域別観点別ともに県や全国平均を上回っている。国語は「敬語の使い方」や「文章に表れているものの見方や考え方を捉え自分の考えをもつ」などが十分ではなく課題。数学は「図形分野」などを中心にとだ問題が解くだけでなく説明する活動を取り入れて学習内容の定着を図ることが、今後力を付けていくことにつながる。
	これまでの学力向上の取組に対する生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・生徒の家庭学習が決められた時間以上できていると答えた生徒は74.9%(目標指標80%以上)で目標値に近づいているが、保護者は49.3%と家庭学習に対する認識のずれがみられる。家庭で学習内容を把握しているとの答えは66.3%で目標値より低い。(達成指標70%以上) ・「めあて」等を掲示して授業を行っているが、生徒にそれを認識させて、授業を進めていくことが必要である。	
指導の状況	1. 組織的な授業改善の取組の状況 ○基礎・基本を徹底し、自主的・創造的な学習態度を養い、自己教育力を育成する。 ・新大分スタンダードを基本にした、生徒の追究意欲のわく課題の設定 ・「分かる、楽しい」授業を目指し、指導法の工夫・改善(現状90.3%→達成指標92%以上) ・計画的、継続的な人権・同和教育と教育相談の実施(クラスに満足 現状59.2%→達成指標70%以上) 2. その他の学習向上に向けた指導の取組状況 ○基本的生活習慣の確立により、家庭学習の定着を図る。 ・学校、家庭、地域による生活指導(安全・安心) ・家庭学習における課題の工夫・改善、読解力を高める課題の設定 ・通信等による保護者への啓発(現状66.3%→達成指標70%以上)	

学力に関する達成指標
<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストで正答率40%未満の生徒の割合を12%未満にする。 ・「めあて・振り返り」「課題・まとめ」を必ず掲示し板書を構造化することで「授業が分かりやすい」と答えた生徒の割合を92%以上にする。

